地域主体のエコモビ活動

浅野　健

クルマを利用して移動する割合が七割超と圧倒的に多い愛知県では、環境（エコロジー）の「エコ」、移動の「モビリティ」、生活の「ライフ」をつなげた言葉である「エコ モビリティ ライフ（略称エコモビ）」を掲げ、県民運動として取り組まれている。この一環で、地域主体のエコモビ活動を支援するモデル事業が二〇〇九年度より実施されている。この三年間にかけて担当した経験から、これまでのモデル事業の成果等を報告する。

地域の活動を支援するモデル事業

愛知県のモデル事業は、一昨年の二〇〇九年度の「あいちエコモビリティライフ促進モデル事業」、二〇一〇年度の「あいちエコモビリティライフ公共交通利用促進モデル事業」、今年度の「あいちエコモビリティライフ実践促進モデル事業」と実施してきている。モデルとなる事業内容が、二〇〇九年度と今年度がエコモビリティライフの促進に繋がる取組であるのに対し、二〇一〇度は「公共交通の利用促進のモデルとなる取組」と若干テーマが絞られた感はあるが、いずれにしても自治会、町内会、商店街、学校、NPOなど地域の団体を対象としている。

地域・テーマ等多種多様な取組

採択された団体数は、二〇〇九年度が五団体、二〇一〇年度と今年度が各四団体となっている。但し、二〇一〇年度には二〇〇九年度に続いて採択された団体が二団体、今年度は二〇一〇年度に続いて採択された団体が一団体あり、三年間の合計は重複を除いて十団体である。

地域別では尾張地域（県内西部）が六団体、三河地域（県内東部）が四団体であり、対象とする主な交通は、コミュニティバスが六団体、鉄道が三団体、自転車が一団体である。

各団体の事業内容は、いずれも特徴があるため個別に紹介する。カッコ内の数字は実施年度。

下山ささゆりバス委員会（二〇〇九）

コミュニティバスを利用し岡崎中心部から旧額田町の里山・中山間部と中心市街地との交流促進。地元のボランティアガイドが酒蔵などを案内するガイドツアーを実施し、さらにボランティアガイドの養成講座も実施した。

日本福祉大学チーム・エコモビ（二〇〇九）

三年間の事業の中で唯一学生が実施主体となった取組で、常滑のコミュニティバスの利用促進に向け、地元ガイドボランティアの協力のもとにやきもの散歩道を巡るエコツアーを実施した。

リニモねっと（二〇〇九）

市民団体が主体となり、参加者を募集、「行政」「企業」に専門家の一員として参加を依頼、十分な資料・情報提供により討議を重ねて提言書をとりまとめた。

尾張旭市営バス「あさぴー号」を育てる会（二〇〇九・一〇）

「堅苦しくなく楽しく」活動することをモットーに、一年目にはEXPOエコマネーと連携したエコポイントによる利用促進の実験、二年目にはクイズラリーと小中学校を対象とした交通すごろく等の教材づくりを実施した。

豊田市エコ通勤を進める会（二〇〇九・一〇）

マイカー通勤が八割に達する豊田市において、企業が参画して自転車を活用した取組。鉄道駅からの端末交通として自転車を利用したエコ通勤を実施した。モデル事業終了の今年度も自転車を利用したエコ通勤事業を継続中。

石巻・下条地域交通推進委員会（二〇一〇）

豊橋市北部の「柿の里」石巻・下条地域において、コミュニティバスの沿線店舗、協賛企業を巻き込み・ポイントカード事業を実施し、運行地域の内と外向けに利用を促すバスマップ等を作成。

武豊町コミュニティバス利用促進友の会（二〇一〇・一一）

コミュニティバスの利用促進に向け、昨年度はバス停用ベンチを住民参加により製作、沿線で開催される朝市を盛り上げるイベントを開催。今年度は観光ボランティアの協力による観光バスツアーを昨年十二月に実施済み。年明けにおでかけレシピカードの作成を予定。

内海・山海まちづくり協議会「きずなの会」（二〇一一）

コミュニティバスを利用したポイントラリーを昨年十一月から十二月に実施し、ポイントラリーの最終日にPRイベントを実施済み。年明けにバス停留所のベンチ製作や表示内容の変更を実施する予定。

わがまち再発見隊（二〇一一）

昨年四月に西尾市幡豆郡三町が合併したのを記念し、十一月に電車やバス、渡船（佐久島）を利用して移動するコースによるウォーキング大会を実施済み。ウォーキングのチェックポイントには市内高校生が参加。来年度以降のコースを今後作成する予定。

祖父江町商工会（二〇一一）

「健康づくり」と「観光」と「環境」を結び付けた取組。鉄道駅前を発着点とした「自転車エクササイズ」や「セラピーウォーキング」などを昨年九月から十二月にかけて実施済み。十一月の黄葉まつりには、特産の「銀杏」の販売とセラピーウォーキングを実施した。「一連の取組を「ヘルスツーリズム」として来年度以降も継続して実施する予定。

左上：尾張旭市営バス「あさぴー号」を育てる会が、エコポイントで得たポイントを活用してバス停近くに植樹

右上：豊田市エコ通勤を進める会の自転車ステーション

右下：武豊町コミュニティバス利用促進友の会の企画で、小学生、高校生、大人が参加してマイベンチを作成

わがまち再発見隊のウォーキング企画で、市内高校生がチェックポイントで参加者を案内。西尾市佐久島にて。

内海・山海まちづくり協議会の海っ子バスPRイベントでは、あいち戦国姫隊、おもてなし武将隊などが駆け付け、盛りだくさんなものになった。

地域団体がエコモビに取り組む意義

これまで採択されたエコモビ活動に関わらせていただいて、エコモビの普及に向けて地域団体が取り組む意義は以下のとおりだと考えている。

- ●市民（学生や企業の従業員も含む）が自ら取り組むため、市民にわかりやすい形や言葉で啓発活動ができる
- ●観光交流、地場産品の販売、健康などそれぞれの得意分野で取り組むことで、エコモビにも新たな視点が加わる

地域主体の取組が継続する秘訣

地域主体の取組が継続する秘訣については、今のところ以下のような共通点がある。

- ●事業を引っ張るキーパーソンがいる
- ●メンバーが楽しく取り組んでいる
- ●コミュニティバスに取り組む団体は「マイバス意識」を醸成する取組をしている
- ●地元市町村の支援がある
- ●じわじわと様々な団体を巻き込んでいる
- ●モデル事業の助成費以上に事業内容が膨らんだ場合でも、地域の企業や店舗等の協力費を得るなど運営を工夫する団体が出てきている

エコモビの発端はその名のとおり「エコ」であるが、三年間のこの取り組みを通じ、観光交流、健康づくり、コミュニティ意識の醸成など様々な可能性を秘めている。こうした草の根のエコモビ活動が広がることで、クルマ主体からエコモビの愛知県へと転換していく、息の長い取り組みはまだまだこれからである。